

第 82 回 通 常 総 会 の 開 催

第 82 回通常総会が、令和 7 年 6 月 25 日、明治記念館 2 階「蓬莱の間」において開催された。

本総会では、議案として、「第 1 号議案 令和 6 年度事業報告の件」、「第 2 号議案 令和 6 年度決算の件」、「第 3 号議案 令和 7 年度事業計画の件」、「第 4 号議案 令和 7 年度予算の件」、「第 5 号議案 令和 7 年度会費及び賛助会費の件」、「第 6 号議案 『日本獣医師会役員等の報酬等に関する規程』の一部改正に関する件」、「第 7 号議案 役員報酬等の総額に関する件」、「第 8 号議案 退任理事に対する退職慰労金の支給に関する件」、「第 9 号議案 役員選任の件」について審議が行われ、異議なく承認された。

第 82 回通常総会の議事概要は下記のとおり。

第 82 回通常総会の議事概要

- I 日 時 令和 7 年 6 月 25 日(水) 13:30～16:30
 II 場 所 明治記念館 2 階「蓬莱の間」
 III 出席者
- 1 正会員 全国 55 都道府県市獣医師会
 (会場出席 50, 委任状提出 1, 議決権行使書 4)
- 2 日本獣医師会
【会 長】 藏内勇夫
【副 会 長】 砂原和文, 鳥海 弘, 栗本まさ子
【専務理事】 伏見啓二
【地区理事】 田村 豊(北海道地区)
 小山田富弥(東北地区)
 宇佐美 晃(関東地区)
 上野弘道(東京地区)
 山田有仁(中部地区)
 西山治生(近畿地区)
 高島一昭(中国地区)
 戒能 豪(四国地区)
 草場治雄(九州地区)
- 【職域理事】** 佐藤れえ子(学術・教育・研究職域理事)
 立川文雄(産業動物臨床)
 森 尚志(小動物臨床)
 横尾 彰(家畜共済)
 片岡辰一郎(家畜防疫・衛生)
 加地祥文(公衆衛生)
 佐伯 潤(動物福祉・愛護)
 石橋朋子(特任理事)
- 【監 事】** 市川陽一郎, 佐々木一弥, 柴山隆史
【顧 問】 酒井健夫, 村中志朗

3 来 賓 **【衆議院議員】**

森 英介(自由民主党 獣医師問題議員連盟 会長代行 衆議院議員)

河西宏一(公明党 獣医師・動物看護師議員懇話会 幹事長 衆議院議員)

【参議院議員】

浅尾慶一郎(環境大臣)
 武見敬三(自由民主党 ワンヘルス推進議員連盟 会長代行 参議院議員)
 有村治子(自由民主党 参議院議員)
 片山さつき(自由民主党 参議院議員)
 古川俊治(自由民主党 参議院議員)
 自見はなこ(自由民主党 参議院議員)

【農林水産省】

安岡澄人(農林水産省消費・安全局長)
 郷 達也(大臣官房審議官兼消費・安全局付兼輸出・国際局付)
 星野和久(消費・安全局畜水産安全管理課長)
 沖田賢治(消費・安全局動物衛生課長)
 宮本 亮(経営局保険監理官)
 岩田 啓(消費・安全局畜水産安全管理課課長補佐)
 古庄宏忠(経営局保険監理官補佐)
 吉田和弘(消費・安全局畜水産安全管理課行政専門員)
 田村みず穂(消費・安全局畜水産安全管理課獣医療振興係長)
 芦田将一(消費・安全局畜水産安全管理課獣医事監視指導係員)

【環 境 省】

植田明浩(環境省自然環境局長)
 立田理一郎(自然環境局総務課動物愛護管理室長)
 佐藤暢彦(自然環境局総務課動物愛護管理室指導調整専門員)

【厚生労働省】

鷺見 学(厚生労働省 健康・生活衛生局 感染症対策部長)
 森田剛史(健康・生活衛生局 食品監視分析官)
 大塚和子(健康・生活衛生局 感染症対策部 感染症対策課 感染症情報管理室長)

海老塚亜友美（健康・生活衛生局 感染症対策部 感染症対策課 課長補佐）

酒田光輝（健康・生活衛生局 食品監視安全課 乳肉安全係長）

【文部科学省】

奥野 真（文部科学省大臣官房審議官）

村上寛和（高等教育局専門教育課 専門官）

【獣医学系大学】

堀 正敏（全国大学獣医学関係代表者協議会 会長）

平井卓哉（宮崎大学農学部獣医学部門 獣医学領域長）

枝村一弥（日本大学生物資源科学部 家畜病院長）

村上 賢（麻布大学 学長）

【関係団体等】

松本博紀（公益社団法人 畜産技術協会専務理事）

岡本琢二（公益財団法人 全国競馬・畜産振興会 業務部畜産振興課長）

井上 真（公益社団法人 日本装蹄協会会長）

福井寿一（公益社団法人 日本動物用医薬品協会 副理事長）

宗像俊太郎（公益社団法人 日本動物病院協会 会長）

東海林克彦（公益社団法人 日本愛玩動物協会 会長）

田畑直樹（公益財団法人 日本動物愛護協会 理事長）

相原夏実（一般社団法人 全国動物薬品器材協会 理事長）

佐藤順子（一般社団法人 日本小動物獣医師会 会長）

横田淳子（一般社団法人 日本愛玩動物看護師会 会長）

IV 議 事

【決議事項】

第1号議案 令和6年度 事業報告の件（報告事項）

第2号議案 令和6年度 決算の件（承認事項）

第3号議案 令和7年度 事業計画の件（報告事項）

第4号議案 令和7年度 予算の件（報告事項）

第5号議案 令和7年度 会費及び賛助会費の件（承認事項）

第6号議案 「日本獣医師会役員の報酬等に関する規程」の一部改正に関する件（承認事項）

第7号議案 役員報酬等の総額に関する件（承認事項）

第8号議案 退任理事に対する退職慰労金の支給に関する件（承認事項）

第9号議案 役員選任の件（承認事項）

V 会議概要

【開 会】

駒田事務局長から、開会時において定款第20条の規定に基づき、正会員である地方獣医師会の過半数が出席しており、本総会が成立する旨が告げられた後、日本獣医師会・獣医師倫理綱領「獣医師の誓い—95年宣言」が一同により斉唱された。

【会長挨拶】



藏内会長から開会挨拶が行われた（巻頭言参照）。

【来賓ご挨拶（大要）】

来賓から次のとおり挨拶が行われた。

〈環境大臣 浅尾慶一郎参議院議員〉



環境大臣の浅尾慶一郎です。

本日、日本獣医師会第82回通常総会が、このように盛大に開催されることを心よりお喜び申し上げます。会員の皆様方には、日頃より希少野生動物の保護や動物愛護管理等、広く環境行政の推進に格別なご理解とご協力をいただ

ており、この場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

また、藏内会長におかれましては、来年4月に世界獣医師会会長に就任されると聞いております。世界規模でのワンヘルスの取組がより一層活発になるよう、さらなるご活躍を期待申し上げます。

さて、本日は、令和6年能登半島地震での日本獣医師会の皆様のご尽力、ご活躍に対して、環境大臣表彰を授与させていただきました。被災ペットの診療や一時預かりなど、獣医師の皆様が被災者の支援に重要な役割を果たされたことに対して、改めて感謝の言葉を述べさせていただきます。災害時も含めて、犬猫の返還に活用されるマイクロチップについて、環境省に登録された犬猫の数はすでに200万頭を超えました。これも日本獣医師会が動物愛護管理法に基づく指定登録機関として、適切に業務を遂行いただいている成果の一つと考えております。また、愛玩動物看護師に関しても、名簿登録者数は2万6,000名を超えました。獣医療及び愛玩動物の適正飼養のため、現場における獣医師の皆様との連携を引き続き期待しております。

このほかにも、獣医師の皆様には、野鳥等の鳥インフルエンザの対応などにおいて、多大なるご協力とご指導をいただいております。これらは藏内会長がいち早く提唱してこられたワンヘルスの具体的な取組の一つであると思います。

環境省としては、人と動物の共生する社会の実現に向け、今後とも努力を重ねてまいりますので、日本獣医師

会の皆様におかれましては、一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

今週は梅雨空が戻っていますが、近年の厳しい暑さに対しては、動物も対策が必要です。そこで、環境省ではペットの熱中症対策のポスターを作成いたしました。皆様のお手元にポスターが配られていると思います。環境省のホームページからダウンロードできますので、ぜひ地方獣医師会の会員の皆様の病院においても、こうしたポスターの掲示をしていただきますと大変ありがたく思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

結びに、日本獣医師会の今後のますますのご発展と本日お集まりの皆様のご健勝を祈念して、お祝いの挨拶とさせていただきます。

〈自由民主党獣医師問題議員連盟会長代行 森 英介衆議院議員〉



ご紹介にあずかりました自由民主党獣医師問題議員連盟の会長代行を務めております、森 英介です。会長の麻生太郎元総理がどうしても外せない所業がございまして出席できないため、代わってご挨拶を申し上げます。

全国の獣医師の代表の皆様方が一堂に会して、盛大な通常総会が開催されましたことをお喜び申し上げます。

さて、牛や豚などの産業動物は、私ども人間にとって不可欠のたんぱく源です。また、犬や猫などの小動物は私ども人間の長い長い相棒であり、心の癒しであります。駒沢公園で何年か前に開かれました動物感謝デーに、私も溺愛する柴犬を連れて参加したこともございます。こうした動物たちの健康管理や病気治療に当たっていただいている獣医師の先生方の役割はきわめて重く、その使命を果たしていただいていることに心からの敬意と感謝をささげます。もちろん獣医師の先生方の役割は、単に動物の健康管理や病気治療にとどまらず、家畜伝染病を防ぐ家畜衛生分野の業務や、狂犬病をはじめとする人と動物の共通感染症の予防業務、また、食肉などの食品の安全性を監視する公衆衛生分野の業務など、実に多岐にわたっておりまして、世の中のさまざまな場面で貢献をいただいております。

思い返せば、2020年初頭より、中国の武漢に端を発する新型コロナウイルス感染症が、あっという間に世界中に蔓延し、私ども人間の社会生活や経済生活に深刻な影響を及ぼしました。このほかにも、昨今、世界各地で家畜や野生動物が鳥インフルエンザや豚熱、BSEなどに感染し、大きな問題となっていることは今さら申し上げるまでもありません。こうして、私たちは人獣共通感

染症が人類の存亡にも関わる大きなリスクになることを、肌で知りました。

しかるに、かかる事態に直面するずっと前から、藏内勇夫会長はそうした学際を超えた人獣共通感染症への取組、すなわちワンヘルスのコンセプトの重要性を訴えておられました。私は、今さらながらに藏内会長の先見性に敬服をするものであります。

なお、会長ご本人からもお話がありましたように、2024年4月に開催された世界獣医師会大会で、日本人として初の次期会長への就任が決定されております。今後、世界を舞台にこうした課題解決のためにご活躍いただきますことを、心からご期待申し上げます。

私たち自由民主党獣医師問題議員連盟は、今後ともワンヘルスという大きなテーマを見据えつつ、獣医師会の抱えた年来の課題、すなわち獣医学教育の充実、獣医師偏在の解消、公務員獣医師の処遇の改善などにも、皆様と心をつなげて取り組んでまいります。

結びに、本日の通常総会が今後の日本獣医師会の活動に資するものとなりますこと、また、日本獣医師会のますますのご発展を祈念して、ご祝辞とさせていただきます。

〈自由民主党ワンヘルス推進議員連盟会長代行 武見敬三参議院議員〉



自由民主党の参議院議員会長を務めておられて、その立場も含めて、この自由民主党ワンヘルス推進議員連盟の会長代行として、第82回の日本獣医師会通常総会において、ご挨拶をさせていただきます。

藏内会長におかれましては、この日本獣医師会の会長という立場のみならず、アジアにおける獣医師会の会長を務められ、また、これからは世界獣医師会の会長を務められます。その間、一貫してこの国際社会の中で、人獣共通感染症に関する考え方がワンヘルスという考え方で整理されるんじゃないかと訴えてこられました。G7サミットなどでも常にこのワンヘルスが共通言語として活用されるようになってまいりました。それをグローバルなレベルと、各主権国家によるナショナルなレベルで共通したガバナンスとして連携しながら、国境を越えて人獣共通感染症にいかに対応するか。この新たなグローバルなコンテクストを持つ課題に対し、国内における対策の整備という観点を打ち出されているのは、世界中でも日本獣医師会の藏内会長が真っ先におやりになった先駆者であります。また、それが実際に具体化される時、いわゆるデジタル化とデータサイエンスを通じて、人獣共通感染症に対応する体制の整備を確実に進められておられるのも藏内会長を指導者と

する皆様方日本獣医師会であります。

やはり国境を越える特性を持つ感染症，特に人獣共通感染症においては，国内の対策のみならず，国際的な連携なくして国内の問題も解決できないということが明らかになっております。それは口で言うのはたやすいのですが，具体的にそれをグローバルなレベルと国内のレベルで，連携して共通の考え方の下にその政策に一貫性を持たせて遂行するというのは，世界どこを見ても日本だけあります。これだけ確実にワンヘルスの概念を推進している国はありません。やはり，日本という国はまだまだ，これからこういうことを世界に先駆けてやろうとすればできるんだということを，藏内会長はお示いただきました。

私は，こうした近未来の日本の新たな役割を創造していただける指導者というのは，日本にとって今きわめて大切であると考えます。あらゆる場面，同じようなパターンで，国内の新たな対策を講じようとするれば，常にグローバルな観点で考えて整理し直さなければならないという時代の局面になっております。ぜひ，皆様方日本獣医師会におかれましては，この国内における新たな体制の整備，その中の一つのキーコンセプトとしてのデジタル化とデータサイエンス，これをベースとしたワンヘルスをグローバルな観点からも推し進められ，わが国が国際社会の中でも模範たるべき，その役割を果たすことができるように，ますますご発展されることを心から祈念を申し上げ，私の挨拶とさせていただきます。

〈公明党獣医師・動物看護師議員懇話会幹事長 河西宏一衆議院議員〉



ただいまご紹介をいただきました公明党衆議院議員，公明党で獣医師・動物看護師議員懇話会の幹事長をさせていただきます河西宏一でございます。

本日は，第82回通常総会の開催，誠にありがとうございます。

本来でありますれば，会長の秋野公造がご挨拶を申し上げるべきところ，本日，公務がございまして，代理でご挨拶を申し上げます。

まずは，全国各地からお集まりをいただきました獣医師の皆様，また，日頃からこの獣医療の向上あるいは動物愛護の推進にご尽力を賜っている全ての関係者の皆様に，心から感謝と敬意を申し上げるところであります。皆様の専門性，また社会的責任，その重さは，記憶に新しい感染症のパンデミックのみならず，これからもさまざまな懸念がある中で，私をはじめ，国民が実感しているところでもあります。

日本獣医師会の皆様は，藏内会長を中心に，人獣一体

のワンヘルス，この理念を世界に発信をしていただきました。また，2013年には日本獣医師会と日本医師会の学術協力の協定書，これも大変画期的な成果だったと思っておりますし，藏内会長の世界獣医師会の次期会長のご就任にも改めて心からお祝いを申し上げたいと思います。また，明年，東京で行われます世界獣医師会大会，ここでさらに日本のプレゼンスが高まっていくことにご期待を申し上げるところであります。

また，公明党といたしましても動物愛護に取り組んでまいりました。昨今，ペットオークション等における幼齢犬猫の課題があるわけでありまして，不適切な販売でありますとか，あるいは生年月日の改ざん，こういったことはやはり対応が急務であり，これもしっかり取り組んでまいりたいというふうに思っております。また，私の先輩に当たります，東京比例でずっと皆様にお支えいただきました高木美智代前衆議院議員が取り組んでまいりました愛玩動物看護師の国家資格化では，すでに2万6,000人を超える方々がそれぞれの分野で，また職場でご活躍をいただいております。獣医師の皆様との連携により質の高い獣医療が提供されていく，すでにその実現が，その歩みが始まっていると高く評価をしているところでもあります。

また，昨年の能登半島地震におきましては，わが党も全国の国会議員を含めて何度も何度も，そして今も足を運ばせていただいております。また，私自身も災害時におけるペットとの同伴避難，これは欧州，あるいはウクライナの避難民，避難所に行きましたときに，欧州ではペット同伴の避難というのが当たり前になっておりまして，こういったこともしっかりと今後進めていきたいと思っております。

また，昨今は獣医療に関わるいわゆる公務員獣医師の方々の処遇の改善も課題であると思っておりますし，人手不足にもしっかりと尽力をしまいらなければならないと思っております。さらには，私も最初当選をさせていただいたときにご相談をいただいたのが，マイクロチップに係るシステム，特に手数料のことでありました。この見直し，私も何度も環境省の皆様働きかけをしてきた1人ですけれども，これが今，着実に改善が進んでいる。これからはしっかりと持続可能なシステムになるように，私自身もしっかりと働いてまいりたいと思っております。

最後になりますけれども，先ほどはこれからの酷暑に向けて，ペットの熱中症のお話が浅尾大臣からございました。私も今，家でペキニーズとマルチーズの3歳のミックス犬を飼っているのですが，やはり地面は非常に体感温度が高うございます。皆様にもこれからさまざまなお力をいただきながら，人と動物の共生，ペットとの共生が進んでいくものと思います。さまざまな制度を通

じて、皆様をお支えしながらしっかり働いていくこと、そして日本獣医師会、そして本日ご参会の皆様のみますご健勝をお祈り申し上げまして、ご挨拶に代えさせていただきます。

〈農林水産省 安岡澄人消費・安全局長〉



ただいまご紹介いただきました農水省消費・安全局長の安岡でございます。本来であれば、小泉大臣が出席させていただいて、ご挨拶させていただくところでございますけれども、業務がなかなか多忙なため出席できず、大変恐縮ではございますけれども、大臣から

祝辞を預かっておりますので代読をさせていただきます。

公益社団法人 日本獣医師会の第 82 回通常総会がこのように盛大に開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。本日ご参集の皆様が、長きにわたり畜産の振興や公衆衛生の向上、動物の愛護や福祉の推進、獣医学術の振興・普及などに真摯に取り組まれ、幅広い分野で大きく貢献されていますことを、深く敬意を表する次第であります。

また、来年 4 月には、東京で世界獣医師会大会を開催し、藏内会長が世界獣医師会会長に就任されるとともに、これまで提唱されてきたワンヘルス・アプローチの取組がいよいよ日本から世界に向けて大きく動き出すこととなり、私としても大変名誉なことだと考えているところでございます。

農林水産省といたしましても、ワンヘルス・アプローチの下、人獣共通感染症対策や薬剤耐性対策について、関係省庁と連携してしっかりと進めてまいります。

また、本年 4 月に、昨年成立した改正食料・農業・農村基本法に基づく新たな食料・農業・基本計画を策定しました。この新たな基本計画では、家畜伝染病への対応、薬剤耐性対策の推進とともに、獣医療提供体制の整備について明記しており、この計画に沿って適切に対策を講じてまいります。

特に、家畜伝染病への対応に関しては、鳥インフルエンザについては今シーズンの大量発生を受けて、新たな対策パッケージを進めることとしております。殺処分の影響をできるだけ減らすための大規模農場での分割管理の推進、さらには、養鶏集中地域での蔓延をできるだけ防ぐための対策、さらには、技術の進展を踏まえたワクチン接種に向けた検討などについても進めてまいります。豚熱については、豚熱清浄化ロードマップに基づいて、清浄化に向けた取組を進めてまいります。また、水際対策についても、水際検疫の強化に向けた検討会で議論を進めておりまして、家畜伝染病予防法の改正など法

制度面も含めた対策の具体化に着手しているところでございます。

こうした対策を進めるには、生産現場での獣医師の皆様方のご協力が不可欠でございます。皆様方におかれましても、日本の畜産を、そして日本の食卓を守り抜くため、指導的な立場からわが国の畜産衛生水準の向上にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

また、愛玩動物分野に目を向けますと、昨年 12 月にオンライン診療の適切な実施に関する指針を公表いたしました。貴会におかれましては本指針に先行してガイドラインを作成し、オンライン診療の適切な実施に努めていただくとともに、本指針の策定に際しても多大なるご協力をいただきました。

今後とも適切な獣医療提供体制の整備に向けご協力をお願い申し上げますとともに、貴会が中心となって、獣医師と愛玩動物看護師との密接な連携の下で、より一層、飼育者に寄り添ったチーム獣医療が提供されていくことを期待しております。

結びに、貴会のさらなるご発展と、本日ご列席の皆様方のみますご健勝、ご活躍を祈念申し上げ、私の祝辞といたします。

令和 7 年 6 月 25 日、農林水産大臣、小泉進次郎。

〈厚生労働省 鷲見 学健康・生活衛生局感染症対策部長〉



第 82 回 公益社団法人 日本獣医師会通常総会の開催に当たりまして、福岡厚生労働大臣の代読として、ご挨拶を申し上げます。

貴会は、昭和 23 年の設立以来、長年にわたって人獣共通感染症対策や食品安全対策など、公衆衛生の向上に多大な貢献をしてこられました。

この場をお借りいたしまして、改めて感謝を申し上げますとともに、これまでの貴会の取組に深く敬意を表します。

また、昨年 4 月に藏内会長が世界獣医師会次期会長に就任され、早 1 年が過ぎたところですが、すでに世界獣医師会において昼夜を問わず、オンラインで次期会長として各委員会にて積極的に議論をリードされるなど、多大なご活躍をされていると聞き及んでおります。日本人で初めての就任とのことで、誇りに思うと同時に、今後ますますのご活躍を大いに期待しております。

さて、厚生労働省では、人獣共通感染症対策や薬剤耐性、いわゆる AMR 対策などの人、動物環境といった分野横断的な課題に対し、関係者が連携して、その解決に向けて取り組むワンヘルス・アプローチを推進しております。具体的には次の感染症危機に備え、昨年 7 月に全面改定された新型インフルエンザ等対策政府行動計画に

おきましても、パンデミックを予防するために、ワンヘルス・アプローチに基づく人獣共通感染症対策の推進が記載され、取組強化の重要性が示されております。

また、現在、厚労省では人獣共通感染症対策の一環として狂犬病予防法関連手続のデジタル化を推進しております。引き続き、貴会をはじめとする関係各所と連携して、取り組んでまいります。

ワンヘルスの考え方についての普及啓発活動や、地方獣医師会との連携したワンヘルス・アプローチの推進につきましては、貴会におきまして率先して取り組まれているところをごさいます。深く敬意を表するとともに、引き続きのご協力をお願いいたします。

食品分野につきましても、食肉や食鳥肉の安全確保に必要な検査業務、また、食品の営業許可施設における監視指導につきましては、獣医師の皆様のご活躍なくして成り立ちません。厚生労働省としましては、これら食肉や食鳥肉の安全確保に携わる獣医師の皆様にご協力をいただきながら、食の安全の確保に取り組んでまいります。

最後に、公益社団法人 日本獣医師会のますますのご発展と、本日お集まりの皆様の一層のご活躍を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉といたします。

令和7年6月25日、厚生労働大臣、福岡資麿。

〈文部科学省 奥野 真大臣官房審議官〉



本日、文部科学大臣の出席ができませんでしたので、大臣から祝辞を預かってまいりましたので、代読いたします。

このたび、第82回 日本獣医師会 通常総会が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

藏内会長をはじめ、日本獣医師会会員の皆様におかれましては、日頃より獣医学教育の充実・振興にご尽力をいただいております。深く感謝申し上げます。

また、来年4月には東京で世界獣医師会大会が開催され、藏内会長が世界獣医師会会長に就任される予定と伺っております。31年ぶりの日本での開催となるこの世界大会を契機に、これまで藏内会長が提唱されてきたワンヘルス・アプローチの取組が、世界的な取組へと発展していくこととなります。藏内会長はじめ、関係者の皆様が果たされる役割はますます大きくなるものと見込まれる中、皆様の一層のご活躍を期待しております。

さて、文部科学省では、平成23年に実施し、獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議での検討において示された5つの改革工程に基づき、国際水準の獣医学教育の実現、家畜衛生・公衆衛生分野及び産業動物臨床分野の実践的教育の強化など、獣医学教育の改善

に努めてまいりました。しかしながら、引き続き、産業動物獣医師及び公務員獣医師の減少が懸念されており、その養成・確保は喫緊の課題と認識しております。

これまで日本獣医師会の皆様、家畜診療所、家畜保健衛生所、食肉衛生検査所、保健所等の各施設の皆様のご協力をいただきながら、学生の診療参加型臨床実習及び体験型家畜衛生・公衆衛生実習の実施など、各獣医系大学において家畜衛生・公衆衛生分野及び産業動物臨床分野で活躍する獣医師の養成が行われてきたところです。

文部科学省といたしましても、今後も外部実習受入れ施設の皆様のご協力をいただきながら、診療参加型臨床実習等の外部実習の円滑な実施に努めてまいります。

また、獣医学を学ぶ学生が、動物の愛護や福祉といった現在の社会ニーズにも対応した高い能力を持った獣医師へと成長できるよう、現在、文部科学省において、獣医学教育モデルコアカリキュラム改訂に向けた調査研究に取り組んでおります。これまで日本獣医師会及び関係の皆様から、ご協力とご意見をいただいております。この場をお借りして改めて感謝を申し上げるとともに、本改訂作業について、引き続きのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、日本獣医師会のますますのご発展と、ご出席の皆様のご健勝をお祈りして、ご挨拶とさせていただきます。

令和7年6月25日、文部科学大臣、阿部俊子。

〈公益社団法人 日本医師会 松本吉郎会長〉



皆さん、こんにちは。日本医師会会長の松本でございます。

日本獣医師会 第82回 通常総会の開催に当たりまして、日本医師会を代表して、一言ご挨拶申し上げます。

全国の獣医師会の先生方におかれましては、日頃より感染症予防や家畜の診療、自然保護、食の安全確保あるいは薬剤耐性対策など、きわめて多岐にわたる分野でご尽力を賜っておりますことに、心より敬意と感謝を申し上げます。特に藏内勇夫会長が昨年、日本人として初となる世界獣医師会の次期会長に就任されましたことは、本当にわが国にとって大きな誇りでございます。改めてお祝いを申し上げます。

また、2026年には世界獣医師会大会が東京で開催されると伺っております。国際的な連携と理解が一層深まることをご祈念申し上げます。

私たち医師会のメンバーは藏内会長のことを尊敬の念を込めて、日頃、ドンクラウチーノと呼んでおります。まさに世界の獣医師会のドンであり、また、全国の都道

府県議会議員のドンでもいらっしやいます。また、日本獣医師会におかれましては、直近では農場管理認定獣医師制度の推進とか、女性獣医師等の就業支援、動物個体識別措置の強化など、本当に社会のニーズに即した取組を数多く展開されており、まさに、獣医療の専門性と社会的役割の重要性がますます高まっていることを実感しております。

3日前に開かれた、日本医師会の全国の代議員を集めた代議員会でも、歯科医師会と獣医師会と連携をして、ワンヘルス、そして人獣共通感染症について連携しながら取り組んでいかなければいけないというような、そういった質問も出ております。しっかりと連携して、前へ進めていくということを答弁させていただいております。

2013年11月には、日本獣医師会、そして日本医師会との間で学術協力の推進に関する協定書を締結しておりますし、福岡宣言の採択など、両会の協力関係は着実に深化しております。今後も新型再興感染症の対応、AMR対策など共通な課題に対して、しっかり連携を強化してまいりたいと思います。

結びとなりますけれども、本総会が実り多きものとなりますこと、そして藏内会長を筆頭に、獣医師会の皆様による力強いリーダーシップの下で、ワンヘルス・アプローチがより一層推進されますことを、心から祈念してございます。貴会並びに獣医師会のさらなるご発展を心より応援申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

〈公益社団法人 中央畜産会 近藤康二専務理事〉



皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました、中央畜産会で専務理事を仰せつかっております近藤と申します。よろしくお願ひいたします。

本日、ここに公益社団法人 日本獣医師会 第82回 通常総会が盛大に開催されますこと、心よりお喜びを申し上げます。私ども中央畜産会では、畜産経営の改善、さらには安全な畜産物の生産、その基本となる家畜衛生の向上に関するさまざまな事業を行っているところでございます。日本獣医師会の皆様におかれましては、高度な獣医学的知識と経験を基に、私どもの事業に多大なるご指導、ご鞭撻を賜っているところでございます。この場をお借りして、心より感謝を申し上げます。

また、来年4月には、東京で世界獣医師会大会が開催され、藏内会長におかれては、その場で世界獣医師会の会長になられるということでございます。日本人で初めてということで、私ども畜産関係団体のみならず、関係者一同、本当に名誉なことと感じているところでござい

ます。心よりお祝いの言葉をお送りしたいと思います。

また、私どもの個別なお話にもなりますけれども、藏内会長におかれましては中央畜産会の理事を20年以上の長きにわたってお務めいただいております。本当に、藏内会長のさまざまなご助言が、私どもの会の運営にとっても貴重なものとなっているところでございます。本当にありがとうございます。

私ども中央畜産会で行っております畜産経営指導と家畜衛生の指導、これは畜産経営が安定的に発展していくためには、まさに車の両輪であるというふうと考えておりますけれども、家畜衛生の推進におきましては、産業動物獣医師の確保が重要な課題と考えております。また、家畜衛生の基本となる農場 HACCP の認証の推進をしておりますけれども、その場においても産業動物獣医師の方々の果たす役割は非常に大きなものがあると考えております。

このようなことから、農林水産省のご指導の下、産業動物獣医師を目指す獣医学生に対して修学資金を給付する事業や、獣医学生を対象とした臨床実習、さらには産業動物獣医師を対象にした家畜伝染病の最新の知見を紹介するためのeラーニング研修などを実施しているところでございます。また、獣医師会、全国 NOSAI 協会、それから私ども中央畜産会が農林水産省のご指導の下、産業動物獣医師確保懇談会も開催しているところでございますが、このような事業は畜産振興を図るうえでは非常に重要と考えており、適切に実施していくうえでは獣医師会からのご指導、ご鞭撻が必要不可欠のものと考えております。この場をお借りして、今後とも中央畜産会、それから畜産関係団体に対するご指導、ご支援をお願いするところでございます。

結びに、日本獣医師会のますますのご発展、それから、藏内会長をはじめ、本日お集まりの皆様のご健勝、ご多幸をお祈りし、私の挨拶といたします。

【来賓の紹介】

駒田事務局長から来賓の紹介が行われた。

【賛助会員出席の披露】

駒田事務局長から出席の賛助会員の紹介が行われた。

【祝電の披露】

駒田事務局長から祝電が披露された。

【獣医師会職員永年勤続表彰】

獣医師会の永年勤続職員に対して次のとおり表彰が行われた。

・20年勤続表彰

戸崎和歌子（宮城県獣医師会）

國分澄江（福島県獣医師会）欠席

【議長・副議長選出】

会長が仮議長となり、議長・副議長の選出について「仮議長一任」の声を受け、次の2名を議長・副議長に選出した。



議長

浦山良雄
(福島県獣医師会会長)



副議長

吉岡 豊
(奈良県獣医師会会長)

【議 事】

議長により次のとおり議案審議が進められた。

《第1号議案 令和6年度事業報告の件》

(1) 伏見専務理事から令和6年度事業報告について報告された。

《第2号議案 令和6年度決算の件》

(1) 伏見専務理事から計算書類が説明されるとともに（別記1 令和6年度正味財産増減計算書）、柴山監事から決算監査報告が以下のとおり行われ、異議なく承認された。

〔決算監査報告〕

監査報告書。読み上げる形で報告いたします。

令和7年6月4日。

公益社団法人 日本獣医師会会長、藏内勇夫様。

公益社団法人 日本獣医師会監事、市川陽一朗、監事、佐々木一弥、監事、柴山隆史。

私たち監事は、令和6年4月1日から令和7年3月31日までの事業年度における理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿またはこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

理事の職務の執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上、監査報告です。

《第3号議案 令和7年度事業計画の件》

《第4号議案 令和7年度予算の件》

第3号議案、第4号議案は関連議案として一括上程され、伏見専務理事から令和7年度事業計画（別記2 令和7年度事業計画書）及び収支予算（別記3 令和7年度収支予算書）について説明が行われた。

《第5号議案 令和7年度会費及び賛助会費の件》

伏見専務理事から令和7年度会費及び賛助会費について説明が行われ、異議なく承認された。

《第6号議案 「日本獣医師会役員の報酬等に関する規程」の一部改正に関する件》

伏見専務理事から「日本獣医師会役員の報酬等に関する規程」の一部改正について説明が行われ、異議なく承認された。

《第7号議案 役員報酬等の総額に関する件》

伏見専務理事から役員報酬等の総額について説明が行われ、異議なく承認された。

《第8号議案 退任理事に対する退職慰労金の支給に関する件》

伏見専務理事から今期をもって退任する砂原副会長、山田理事、高島理事、戒能理事、横尾理事、片岡理事、加地理事の7名に対する退職慰労金の支給について説明が行われ、異議なく承認された。

《第9号議案 役員選任の件》

伏見専務理事から、役員定数、任期、候補者の公示期日、選任方法について説明された後、令和7年度第1回理事会で選出された役員候補者名簿が示され、候補者1人ずつ承認が諮られ、異議なく承認された。

【理事候補者】

- 安食政幸（鳥根県獣医師会会長・中国地区理事）
石橋朋子（東京大学特任研究員・特任理事（外部理事））
上野弘道（東京都獣医師会会長・東京地区理事）
宇佐美 晃（茨城県獣医師会会長・関東地区理事）
梅田浩史（元日本医療研究開発機構シーズ開発・研究基盤事業部長・公衆衛生職域理事）
小山田富弥（青森県獣医師会会長・東北地区理事）
草場治雄（福岡県獣医師会会長・九州地区理事）
藏内勇夫（福岡県議会議員・会長）
栗本まさ子（日本獣医師会副会長・副会長）
佐伯 潤（大阪府獣医師会会長・動物福祉・愛護職域理事）
佐藤 博（新潟県獣医師会会長・中部地区理事）
佐藤れえ子（岩手大学名誉教授・学術・教育・研究職域理事）
篠原公七（香川県獣医師会会長・四国地区理事）
島村 剛（神奈川県県民家畜保健衛生所所長・家畜防疫・衛生職域理事）
立川文雄（大分県獣医師会会長・産業動物臨床職域理事）
田村 豊（北海道獣医師会会長・北海道地区理事）
鳥海 弘（神奈川県獣医師会会長・副会長）
西山治生（三重県獣医師会会長・副会長）
長谷川哲也（兵庫県獣医師会会長・近畿地区理事）
伏見啓二（専務理事）
森 尚志（京都市獣医師会理事・小動物臨床職域理事）
吉武 朗（全国農業共済協会企画研修部農業共済役員講習講師室長・家畜共済職域理事）

【監事候補者】

- 市川陽一郎（千葉県獣医師会会長）
佐々木一弥（岩手県獣医師会会長）
柴山隆史（滋賀県獣医師会顧問（外部監事））

【議長・副議長の退任挨拶】

議長・副議長から退任に際して円滑な審議へのお礼が延べられた。

【関係国会議員挨拶】

総会開催中に会場に駆けつけられた関係国会議員から以下のとおり挨拶が行われた。

〈自由民主党 有村治子参議院議員〉



さまざまなご配慮をいただいたうえで、議長様からの発言の機会を賜りまして、ありがとうございます。

昨年もこの総会に心してご一緒させていただきました。さまざまなことを学ばせていただきました。獣医師会の藏内会長様、また、

日本獣医師連盟の村中委員長様はじめ、皆様にご厚情を賜りまして、去年の春から獣医師会の先生方とご縁を賜ることができました。それから1年半でございますけれども、心して私も全国各地の獣医師会の先生方と交流を持たせていただき、現場を見させていただき、つなぎを来て牛舎にお伺いをし、そして、先生方の仕事の醍醐味や、あるいは課題ということをお聞かせいただいで、そして、この1年半、本当に濃密な先生方との交流をしながら、互いに政策を磨いていくという機会を与えていただいたことに、心から感謝を申し上げます。

そして、いよいよ来週から始まります参議院議員選挙、3週間後には寝ても笑っても泣いても結果が出るという厳しい戦いでございますけれども、ご推薦をいただきたくと存じます。大事な議事の前に数分お時間をいただくことをお許しいただき、また、この時間を心から感謝を申し上げます。獣医師の応援団としての麻生会長の下で、私もしっかりと結果を出していけるような議員連盟の一員でありたいと思っております。

1年半、ご縁をいただく中で、私が痛感した獣医師の先生方の特徴、幾つかございますが、まずもって先生方は心のEQの高い、つながり力の高いサイエンティスト、科学者であるということに感銘を受けました。たとえば去年のこの会におきましても、一人一人意見が違ったとしても、敬意を持って発言をされ、そして、議事進行の中で投票も一人一人ちゃんと数を数えられるという民主的な運営をされている。そして、そのお話の進め方もサイエンティストらしく、本当に論理的に話をされる。会のまとめ方もそのようにされているということに、民主主義にお仕えをする政治家としても、心からの感銘を受け、そして、その志を私もお供させていただきたいと思うようになりました。

2つ目に私が一国民として感じたことは、やはり獣医師の先生方という、エンドユーザーである国民の一人としては、動物病院の先生方が最初に目に触れがちでございますが、1年半一緒に活動をさせていただく中で、たとえば感染症だとか、たとえば食品安全だとか、たとえば学校における動物飼育の問題や、被災地においてどのように人と大事なペットを避難所で過ごせるお手伝

いをするか、さらに鳥獣被害の問題もありますし、公益性のためにこれだけ先生方がお力を与えていただいているんだということを、国民としても、また政治家としても痛感をいたしました。

そういう意味では、公務員獣医師の先生方の社会的な地位向上、また処遇の改善ということ、私は国家公務員制度担当大臣経験者としても、ぜひこれをやっていきたいと思っております。むしろ、どちらかという私のほうが積極的だったんですが、これは陳情して終わりという話ではなく、一過性のものでなく、ずっと関わってくることでございますので、制度そのものを変えていかなければなりません。そういう意味で何とか先生方にお力をいただいて、結果、獣医師の先生方の社会的地位向上のために、開業の先生方もいらっしゃいますし、公職に就いておられる方もいらっしゃいますけれども、まずは前線に私も立っていききたいと思っております。

そして、3つ目、ぜひ一緒にやりたいこと、その最後でございますけれども、それはやはり世界の中で、今国際秩序が揺らいでいる。そして米中の覇権の中で日本がどのように生き残りをかけていくかということで、国会人として痛感をしていることがあります。それは、国際秩序の従順なフォロワーでいるだけでは駄目だということでございます。まさに、秩序を変えていこうとする勢力が台頭をして、その発言力を増している中で、世界で従順なフォロワー、ルールに従順に従う「いい子ちゃん」だけではなく、これがみんなにとっての利益であり、わが国の利益であり、これを追求していくことが世界みんなにとって利益のあることなんだ、というその理念や、その体制をしっかりと広げていく、そのチャンピオンシップ、指導者になっていく。できるかどうかは分かりません。けれども、少なくともそういうステータスを目指していかなければ、日本の存在感は厳しくなっていくと思っております。

その中で、藏内会長が世界に先駆けてワンヘルスということを共有され、それを各地で、自治体でも実行をされようと福岡をはじめとして主導をされていらっしゃる。これは国家国民に仕える政治家としても、私たちが単にルールを与えられただけではなくて、世界にとっての利益をちゃんとと言える日本にしていきたい。この分野の一つが獣医師である先生方が奉職していらっしゃる分野だというふうに思っています。そういう意味ではワンヘルスというのは、単に人間と、そして動物というだけではなく、また、一国というだけではなく、みんなでその概念を広げていく、まさに国際秩序をよりよいものに変えていく。その中で発信力と信用力と、そしてつながり力を広げていく。ここを実践されていらっしゃる先生方と私はご一緒したいですし、それが結果的に日本のプラスに絶対につながるというふうに確信をしております。

す。その前線にお供させていただきたいという思いでございます。

獣医師会で、政治連盟のほうでご推挙をいただいて、私も24年間、大臣をさせていただいた経験も生かしてまいります。現場を大事にする。その中で真摯な態度は先生方もご覧になっていただいたと存じます。私は派手なパフォーマンスはいたしませんけれども、堅実で実直で、そして職業倫理を大事にする、そういう政治を、ベテランの域に入っていく年季ではございますけれども、真面目にやり遂げていきたい。そういう中で真面目に命を守っていただいている獣医師の先生方の信頼を与えていただいて、何とかこの当落選上にいる、今自民党、大変厳しい状況でございますが、その中で何とか滑り込ませていただきたいというふうに思っております。

私、過去4回、選挙を戦っております。19位、14位、12位、10位と、全国で個人名を書かれた数が本当に少しずつでございますが、確実に全国での信用と知名度をいただいております。けれども、今回の比例区、全国区は全50議席の中で自民党というふうに書かれる数が少なくなる。そういう意味で当選となるのが9議席から14議席だというふうに予想をされています。獣医師の先生方にも、有村さん、元気だから大丈夫だよとおっしゃっていただくことが少しずつ出てまいりましたけれども、本人の元気さと選挙の当落は全く関係がありません。そういう意味ではつらい、厳しい戦いでございますけれども、こういうときこそ人格を磨いて、そして、前を向いて、そして胆力を政治家として養う、大事な大事な試練をいただいているということ、自らに奮発をしながら、だからこそ志を高く掲げて、公益のために世界に目を見開いて、日本の国益とそして国民益を真面目に追求していく、そういう姿勢で戦い抜きたいというふうに思います。

このような大事なときにご推挙をいただきました。その名に恥じないように、1件の選挙違反も出さず、そして1件の街頭での自動車、自転車の接触事故を出さず、熱中症を出さず、結果を出すということで、また、獣医師の先生方、また獣医師の先生方が大事に守っておられる価値、命を守る、そして、社会の公益を守る、そしてみんなの幸せをつくり、高めていくという前線に立たせていただきたいと思っております。

このような機会をいただきましたことに、改めて感謝を申し上げ、本総会の開催のご祝意と、そして有村治子の決意の言葉とさせていただきます。引き続き、心して頑張ります。どうかお力を貸してくださいませ。よろしく願いいたします。

〈自由民主党 片山さつき参議院議員〉



皆様、こんにちは。自由民主党でちょっと変わった名前の議員連盟がございます。ペット関連産業人材育成議員連盟と申しますが、鈴木俊一先生の後を受けて、その会長を4年来務めております、参議院議員の片山さつきでございます。

藏内会長のリーダーシップで、愛玩動物看護師ができました。その立法の基になった議連なんですけれども、その後、会長がアジア、そして世界に進出され、ワンヘルスという言葉が日本だけではなくて、世界で相当浸透して、さらに今般、藏内会長が都道府県議長会という大変に重要な政治力を持つ団体の会長に就任された。これは、獣医師会様にとっても大変な追い風になると思います。まずはおめでとうございます。

いろんな公文書にワンヘルスという言葉を入れるために頑張っているんですが、環境省のほうでも、このたび、獣医師会がいわゆる被災地のペットの避難について非常に貢献されたということで表彰をされたということ、浅尾大臣から伺っております。そこで、われわれの議員連盟でも過去、まさに最初の東日本大震災から熊本、それから先般の能登と、いろいろなことを提言として受けさせていただいたのを、最近まとめる会合を開かせていただいて、獣医師会の代表にも出ていただきまして、東京の都心なら都心のやり方で、また地方なら地方のやり方で、都心でしたら、地域の獣医師会と、都心のほうはデータもきちんとまとまっていますから、獣医師会さんが狂犬病の予防注射の履歴とか、ワクチンの履歴をお持ちですので、そういうところのチェックを経てやれば、ホテル業界などと連携をして、きちんと共同避難がペットについてできると、こういうような連携例が一つでも多くできるように、獣医師会さんをご相談の上、後押しをしまっているのもわれわれの仕事かなと思っております。

また、さらに、私も初入閣が地方創生大臣でしたが、地域には廃校がたくさんございます。これは東京のど真ん中以外は全部あります。少子化ですから、そういったところは水回りがございますので、いざというときの避難とか、避難訓練とか、平時にはペットの遊び場とかにもなりますので、そういう形で何とか国も地方も支援しながら、上手に避難をします。帯同避難がもう今や常識というようなことを、今一生懸命やらせていただいております。

いずれにしても、皆様のご協力、皆様の知見なしには進みませんので、皆様のご発展がペット関連産業の発展とイコールです。GDP1,000兆円は私が岸田総理に質問して、2024年3月に入りまして、今後の自民党の参議

院公約でもありますが、まだ、ペットGDPというのを設定できていないんです。これは絶対できるんです。私は5兆円とっております。それを獣医師会様のお導きで、ワンヘルスとともにご指導をいただきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

【日本獣医師連盟活動報告 村中志朗委員長】



村中志朗委員長から次のとおり報告が行われた。

皆さん、こんにちは。長時間、総会大変お疲れさまでございました。

連盟のからご報告がございます。日常的な活動の報告は時間の関係で割愛したいと思いますけれども、先日の東京都議会議員選挙、

これは7月の参議院議員選挙の前哨戦と言われていたものでございますけれども、改選前は自民党は第一党で31議席あったのが21議席に減りました。私の予想では23議席は取るのではないかなと思っていましたが、私の予測も随分下回る議席数で、相当の逆風が吹いているなというふうに思っています。このまま自民党・公明党にとっていいニュースがないまま、参議院議員選挙に入っていきます。7月3日が公示で、7月20日が投票日になります。

ですから、先ほどお見えになってご挨拶いただきました。私ども日本獣医師連盟が推薦している有村治子さんを何としてでも、応援してまいります。彼女の人となり先ほどのお話で十分ご理解いただいたと思います。また、彼女の経歴ですけれども、いろいろと国会中継とかをご覧になっている方はご存じかと思っておりますけれども、非常にきばきと的を得た質問をしています。また、女性活躍担当大臣、それから行政改革担当大臣、国家公務員制度担当大臣、内閣府特命担当大臣、これは規制改革・少子化対策・男女共同参画という担当でございました。そういう意味で大臣経験もかなりあって、日本にとっては非常に重要な方、また、獣医師会に対する理解も非常に深めていただいております。われわれにとってはなくてはならない存在だと思っております。

したがって、これから7月の選挙に向けて、全国上げて応援していただきたいです。ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

逆風の中の戦いになりますが、何とかここで踏ん張っていただかないと、せっかく藏内会長が全国議長会の会長になられても話が通りにくくなったりしますので、ぜひともよろしくお願ひ申し上げます。

【閉 会】

駒田事務局長から第82回通常総会の閉会が告げられ、このち別室にて第3回理事会を開催し、代表理事及び執行理事等を決定し、その結果はこの会場で発表する旨説明された。

【役員等選定結果報告】

専務理事に選定された伏見理事から、今期の会長、副会長、地区理事、職域理事、監事が読み上げられた（312頁参照）後、顧問として酒井健夫氏、村中志朗氏、砂原和文氏、北村直人氏が就任された旨報告された。

【会長就任挨拶】

先ほどの総会で、理事に満場一致でご選任をいただきまして、引き続き行いました理事会で会長の再任を受けました。皆様方には、これまで以上にいろいろな意味でご支援を賜りたいと願っているところでございます。

今、伏見専務から報告がございましたように、顧問として新たに、これまで私の補佐役を長年務めてくれました秋田県獣医師会会長の砂原先生、北村先生に就任いただきました。実は昨日、北村先生を訪問いたしました。沖縄で石破総理とお話をする中で、総理が非常に北村先生のことを心配されておられましたので、実は、私は明後日お会いしますと、こう言いましたら、ぜひ北村先生によろしく伝えてほしいとのことでした。総理は飛行場からメールまで私に送ってききましたので、そういう話も、北村先生に久しぶりにお会いいたしました。非常にお元気でございました。

私が来年、世界獣医師会の会長に就任をいたします。それから6月2日に法律で決められています地方を代表する6人の1人に選任を受けました。これは47都道府県議会議長会の会長という役職でございますが、こういったことを考えたときに、ぜひ、北村先生にも顧問に

加わっていただきたいとお願いをいたしました。これまで連盟の顧問を務めていただいていたわけでございますが、そういうことで、北村先生には昨日就任の了解をいただきましたので、私は本当に心強いと思ひまして、先ほどの理事会で経過報告を行い、理事会で承認をいただいたものでございます。まずもって皆様方にご報告をしたいということでございます。

来年の4月の世界獣医師大会、時期が4月でありますから、小動物関係の先生方は非常にご多忙な時期でございますので、非常に申し訳なく思っておりますが、これも東京都との協議の結果、どうしてもそこしか設定できなかったということがございます。その代わり、東京都もできる限りの支援をするということでございまして、今年7月にワシントンDCでWVAC世界大会が開催されますが、このワシントンに小池知事も同行いただきまして、次期開催地のガバナーとしてスピーチをやっていただくようにしております。そういうことで、来年の東京大会を完璧な形で盛り上げていきたいと思っておりますので、ぜひ、皆様のご理解とご協力を心からお願いを申し上げる次第でございます。

また、マイクロチップ、それから狂犬病の登録等につきましては、飼い主の方の利便性はもちろんであります。地方獣医師会、構成獣医師の先生方のためにも、役に立つような法律改正、あるいは日本獣医師会としてのシステム設立等について、努力を続けてまいりたいと考えておるところでございますので、いずれにいたしましてもこれから2年間、地方会、構成獣医師の皆様方のご理解とご協力、また情報を共有する中で同じ目標を持って、車の両輪として前進を図りたいと考えているところでございますので、先生方のご理解、ご支援を重ねてお願いを申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願ひを申し上げます。